

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地														
北海道農業専門学校		昭和51年7月31日		野 英二		〒 062-0052 (住所) 北海道札幌市豊平区月寒東2条14丁目1番34号 (電話) 011-851-8236														
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地														
学校法人八紘学園		昭和54年4月26日		折登 一隆		〒 062-0052 (住所) 北海道札幌市豊平区月寒東2条14丁目1番34号 (電話) 011-851-8236														
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度														
農業	専門課程	農業科		平成15(2003)年度		平成28(2016)年度														
学科の目的 農業の実習体験を本位とし、農業社会人としての心構え、態度、技能及び知識を養い、将来広く国内外の産業に貢献し、先進的農業を積極的に推進し自らその活動の場を求め切り開いて行く、自給自足の精神に富む青年の育成																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等) 取得可能な資格: 家畜人工授精師、車両系建機講習、家畜商、フォークリフト講習等、中退率 0%																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験													
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,810 単位時間 106 単位		740 単位時間 37 単位	100 単位時間 5 単位	1,960 単位時間 65 単位	30 単位時間 1 単位													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																
70 人	50 人	0 人		0 %																
就職等の状況	■卒業生数(C) : 31 人 ■就職希望者数(D) : 30 人 ■就職者数(E) : 30 人 ■地元就職者数(F) : 26 人 ■就職率(E/D) : 97 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 87 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 84 % ■進学者数 : 1 人 ■その他 : ○○○○○○ (令和 4 年度卒業生に関する令和 4 年 5 月 1 日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) カルビーポテト(株)、風のがっこう、北王農林(株)、(株)トップファーム、有)デーリィサポート																			
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: ○○○○ 受審年月: ○年○月 評価結果を掲載したホームページURL ○○○○																			
当該学科のホームページURL	http://hakkougakuen.ac.jp																			
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)																			
	<table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>40 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>28 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>20 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>40 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>28 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>20 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table>						総授業時数	40 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	28 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	20 単位時間	うち必修授業時数	40 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	28 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	20 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間
総授業時数	40 単位時間																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	28 単位時間																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	20 単位時間																			
うち必修授業時数	40 単位時間																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	28 単位時間																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	20 単位時間																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																			
	(B: 単位数による算定)																			
	<table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>○○ 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>○○ 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>○○ 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>○○ 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>○○ 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>○○ 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>○○ 単位</td></tr> </table>						総授業時数	○○ 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	○○ 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	○○ 単位	うち必修授業時数	○○ 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	○○ 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	○○ 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	○○ 単位
総授業時数	○○ 単位																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	○○ 単位																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	○○ 単位																			
うち必修授業時数	○○ 単位																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	○○ 単位																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	○○ 単位																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	○○ 単位																			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)						15 人													
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)						1 人													
	③ 高等学校教諭等資格者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)						0 人													
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)						1 人													
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)						0 人													
	計						17 人													
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数						17 人														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

建学以来の物質循環機能を生かした持続的な農業の実践と共に、すでに農業の6次産業化を実践し、実習に取り入れている当校の農場運営の更なる高度化のほか、農業従事者の減少・高齢化に対応するITC農業技術のカリキュラム導入や、農業所得向上につながる高度に管理された施設園芸の推進など、強い農業者育成を図る教育内容に改善していくための提言

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は教務規程第3条に規定された学外の企業等委員と学校内委員とで構成され、委員長である校長が招集して開催する。委員会は北海道農業専門学校組織図のとおり校長直属の組織であり、学校は現状の教育内容を開示し、委員は教育課程編成委員会規程第2条に定める事項について審議し、企業等との連携に関する基本方針に沿って最新の知見に基づいた提言を行う。校長は、次年度以降の教育課程編成にこれを生かす。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
沼田 光弘	北海道農業協同組合中央会 営農支援部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	①
中村 卓司	農研機構 北海道農業研究センター 寒冷地野菜水田作研究領域 野菜水田複合経営Gグループ長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
上原 慎一	北海道大学 大学院 教育学研究院 教授	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
高林 透	(株)三祐コンサルツ 海外事業本部 技術第1部	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	③
馬場 洋二	北海道農業専門学校 教学部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
田 健一郎	北海道農業専門学校 農場部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—
木村 武資	北海道農業専門学校 総務部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、12月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年10月27日 13:30～15:30

第2回 令和5年3月20日 13:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

①R5年度事業計画実施を検討している教育農場内無線LANの設置、ICT環境の整備について

②本校新卒者等を対象とした研究生制度の骨子案について

①については具体的な活用方法、教育指導に活かす為に導入を検討すべきICT機器等についての意見交換

②については骨子案として 今後検討を進めていく上での課題等についての意見交換

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は実習主体のカリキュラムを組んでいるため、学生が生産実習で学んだ内容の理解をさらに深めさせることを目的とした実習について企業と連携をとり、最新の理論や技術を習得させる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

農業用ドローン・農薬散布用ドローン・可変施肥機能搭載施肥機等を用いた演習形式のスマート農業関連授業や、本校での飼養管理の分析指導を委託しているコンサルタントと連携し、飼料作物等の生育調査等の演習を実施。授業科目内容を向上させる。またその学習成果等については外部委員等との意見交換を経て、次年度以降のカリキュラムの改善を図っていく。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
演習Ⅰ	スマート農業関連の演習として 主に精密農業について 農業用ドローン等機器を用いたデータ収集方法、NDVI等を用いた生育データ分析。またそれらデータを生かした可変施肥方法等を演習方式で実演を含めた実地方式で学習	(株)ニューホランド
エンジン・トラクター分解組立	ディーゼルエンジンの分解、組立などの作業を行うことにより、エンジンの構造を理解する。トラクターを分解し、動力の伝達の仕組みを理解する。 農薬散布用ドローン等の保守点検・メンテナンスおよび雲梯手法についての演習形式	北日本スカイテック サン格林太陽
測量実習	測量理論を理解し、農場を実測する。PC上で作業計画をたてて、そのデータをGPS搭載のトラクターに転送し、GPSガイダンスに沿った操作も体験する。これからの精密農業を理解する切っ掛けとする	北海道GIS技術研究会
トラクター実習	自動操舵搭載トラクター、可変施肥機能搭載肥料散布機、ドローン運転操作手法等について指導を受け、各機器の操作手法等の習熟を促していく	(株)ニューホランド他
作物栽培学(飼料)	飼料作物(デントコーン)の生育状況および収穫適期等についてコンサルティング業務を担ってもらい、その内容状況等を冬期講義内容等と連携させ より深い学びに結び付けていく。	サツラク農業協同組合

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

0

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修は、就業規則第4条および職員研修規程に基づき、職員の担当分野における実務に関する専門的な知識、技術及び技能を農業試験場、大学等といった研究機関の他、農業関連機関とも連携して専門分野の最新の技術や動向を取り入れられるようにする。さらに役職や講義の受け持ちの程度に応じて規程の区分に従い、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上させることを目的とした、指導力の習得・向上の研修を北海道専修学校各種学校連合会や農協などといった機関とも連

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	全国和牛共進会視察等	連携企業等:	0
期間:	令和4年9月	対象:	畜産G乳牛科長・主任
内容	和牛共進会視察および最新畜産施設等の視察研修		
研修名:	北海道果樹研修会・懇話会	連携企業等:	北海道果樹懇話会
期間:	R4年12月	対象:	果樹科主任
内容	果樹生産管理、栽培管理手法についての研修会		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	職業実践専門課程に係る研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会
期間:	R4年8月、12月	対象:	職員
内容	学生指導者に活かす行動認知療法		
研修名:	ミライの農業をつくる 指導者向け研修 web オンライン	連携企業等:	株式会社マイファーム
期間:	令和4年8月	対象:	各科 部長・科長・主任
内容	学生指導者向け等の実践・効果的な指導手法等		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	全国和牛共進会視察等	連携企業等:	0
期間:	令和4年9月	対象:	畜産G乳牛科長・主任
内容	和牛共進会視察および最新畜産施設等の視察研修		
研修名:	北海道果樹研修会・懇話会	連携企業等:	北海道果樹懇話会
期間:	R4年12月	対象:	果樹科主任
内容	果樹生産管理、栽培管理手法についての研修会		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	職業実践専門課程に係る研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各専修学校教員能力認定委員会
期間:	R4年8月、12月	対象:	職員
内容	学生指導者に活かす行動認知療法		
研修名:	ミライの農業をつくる 指導者向け研修 web オンライン	連携企業等:	株式会社マイファーム
期間:	令和4年8月	対象:	各科 部長・科長・主任
内容	学生指導者向け等の実践・効果的な指導手法等		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容			

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の農業の担い手育成を第一とした教育活動が、学校運営状況が健全であって、教職員の資質向上に向けた取り組みが組織的且つ効果的であるかについて自己評価をし、その結果に基づき生徒保護者や学校関係者による評価を行う。評価を基に学校運営の改善のための必要な措置を講じ、教育水準の向上に努めて、その結果を公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標・育成人材像
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(7)学生の受入れ募集
(7)学生の受入れ募集	(8)財務
(8)財務	(9)法令等の遵守
(9)法令等の遵守	(10)社会貢献・地域貢献
(10)社会貢献・地域貢献	〇〇〇〇〇
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

①学生に対し「入学時」および「卒業時」に、資格取得状況調査を実施することで受験者数の年次変動が有ることを簡単に説明できることとなる。との意見を踏まえ 学内企画委員会にて討議しHP等へ資格取得状況の掲載決定した。②職員に対して、経験年数に応じた推奨資格取得例を提示することで、キャリアアップの目標が設定できモチベーションを高めることができるのではないかと。との意見に対し教員の資格取得支援制度等を確立させていく。③セクシャルハラスメント等の防止の方針を明確化し、対応マニュアルを策定して適切に運用しているか」は、総務部長より現在取組を強化していることを説明した。次年度、一定水準に達していることを期待するとの評価が出された

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
坂爪 浩史	北海道大学 大学院 農学研究員	令和4年5月31日～令和5年3月31日(2年)	教育的知見
鈴木 卓	北海道大学 大学院 農学研究員	令和4年5月31日～令和5年3月31日(2年)	教育的知見
山田 秀人	一般財団法人 北海道農業協同組合学校	令和4年5月31日～令和5年3月31日(2年)	校長指名
及川 弘	北海道農業改良普及協会	令和4年5月31日～令和5年3月31日(2年)	関連業界
小倉 清爾	八紘学園 北海道農業専門学校 同窓生	令和4年5月31日～令和5年3月31日(2年)	卒業生
北島 亜寿香	在校生保護者 農業者	令和4年5月31日～令和5年3月31日(2年)	在校生保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)広報誌等の刊行物・その他())

URL:

URL: <https://hakkougakuen.ac.jp>

公表時期:

令和5年9月 12月

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報提供は、専門学校における情報提供等への取組に関するガイドラインを踏まえ、学校ホームページおよび学校案内の冊子を用いて教育活動その他の学校運営の状況を定期的に公開することにより、企業等の学校関係者との連携の推進や、受験希望者および保護者への正確な情報提供を行っていく。また、各部門の業務に関わる企業等の主催する事業には

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 専攻各科の教育内容（農業の1学科のみであるため）
(3) 教職員	(3) 教職員（専任・非常勤）
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援（学生寮）
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	〇〇〇〇〇
(11) その他	〇〇〇〇〇

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: URL: <https://hakkougakuen.ac.jp>

公表時期: 令和5年9月 12月

授業科目等の概要

(専門課程農業学科)																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○			農業政策	・他産業と農業の歴史的発展の過程 ・日本農業と国際事情 ・当面の農業問題の所在と発展方向	1 ・ 2	20	1	○			○			○		
2	○			農業実践論	農業実践者の事例紹介	1 ・ 2	20	1	○			○				○	
3	○			農業経営学	・わが国の農業経営の特質 ・農業経営の目標 ・生産性について	2 ・ 2	20	1	○			○				○	
4	○			土壌学	・土壌の種類と性質 ・土壌の性質と生産力	1 ・ 2	20	1	○			○				○	
5	○			作物学	・普通作物の形態と機能、栄養と生理 成長と発育、環境 ・栽培技術	1 ・ 2	20	1	○			○				○	
6	○			園芸学	・園芸作物の種類を特色 ・栽培管理とその問題点	1 ・ 2	20	1	○			○				○	
7	○			畜産学Ⅰ	・日本 の 畜 産 概 況 ・主要畜産物の生産要因 ・乳牛の改良と登録 ・乳牛の飼養管理法	1 ・ 2	20	1	○			○		○			
8	○			農業機械Ⅰ	・トラクターの特徴、分類及び性質 ・各部機能と構造、保守管理 ・経済性	1 ・ 2	20	1	○			○				○	
9	○			食品製造学	・牛乳の組成と成分物理的性質 ・主な製品と加工法 ・肉の性状、処理、貯蔵及び加工法	1 ・ 2	20	1	○			○		○			
10	○			家畜健康管理学	・消化器系、呼吸器系、循環器系統の疾病 ・伝染病、寄生虫病	1 ・ 2	20	1	○			○				○	
11	○			農業機械Ⅱ	・農業機械の発達史 ・各種作業機の原理 ・農業機械化の現状	1 ・ 2	20	1	○			○		○			
12	○			実習講義	・各科における実習上の基礎知識	1 ・ 2	100	5	○			○		○			
13		○		応用昆虫学	・昆虫の分類 ・被害の実態と分類 ・発生予察、防除法	1 ・ 2	20	1	○			○				○	
14		○		農業気象学	・気象概論 ・気象要素と作物・動物 ・施設と環境制御 ・農業気象災害	1 ・ 2	20	1	○			○				○	
15		○		植物病理学	・植物病理の概論 ・病原の分類と病徴 ・主な病害例とその病除法	1 ・ 2	20	1	○			○				○	

16	○	英会話 I	・場面を想定した会話練習	1 ・ 2	20	1	○			○		○	
17	○	マーケティング論	・マーケティング（農産物等） 基礎・戦略・重要性についての理解	1 ・ 2	20	1	○			○		○	
18	○	情報処理	・ワード、エクセル、パワーポイントの操作と活用	1 ・ 2	20	1		○		○		○	
19	○	作物栽培学 （飼料）（畑作）	・農業の発達史 農学と農業 ・栽培の概況と技術 ・栽培の概況と技術	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
20	○	花き園芸	・草花園芸の利用 ・草花生理と育苗技術及び繁殖技術 ・育苗生産と経営	2 ・ 2	20	1	○				○		○
21	○	果樹園芸	・果樹園芸の変遷と現況 ・果樹の種類と分類 ・果樹の生育と環境、管理 ・りんごの特性	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
22	○	野菜園芸	・栽培管理の要点 ・果菜類、葉茎菜類、根菜類の栽培	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
23	○	組織培養学	・生長点培養（無病苗）の技術	2 ・ 2	20	1	○			○			○
24	○	家畜飼養学	・家畜に対する環境の影響 ・畜舎等畜産施設の種類と特性 ・一般的家畜飼養管理法	2 ・ 2	20	1	○			○			○
25	○	家畜繁殖学 I	・生殖器の構造 ・繁殖と泌乳に関係の深い各種ホルモンの生理作用 ・人工授精、受精卵移植 ・繁殖障害	2 ・ 2	20	1	○			○			○
26	○	家畜栄養学	・家畜の消化と吸収 ・飼料の種類と特性、配合と給与 ・飼養標準	2 ・ 2	20	1	○			○			○
27	○	畜産学 II	・家畜の主要品種と特徴 ・日本の畜産概況 ・主要畜産物の生産要因 ・肉牛・中小家畜の改良と登録	2 ・ 2	20	1	○			○		○	
28	○	家畜の育種	・形質遺伝、体型と泌乳能力、肉牛の選抜、乳牛の交配方法、肉牛の交配方法 ・肉牛の能力検定、血統登録、世界の乳牛改良	2 ・ 2	20	1	○			○			○
29	○	家畜の繁殖学 II	・雄牛の生殖器・精子の形態と構造 ・発情の徴候と発情に及ぼす BCS の影響 精子及び卵子の生存性と受精能力授精適期と受胎率	2 ・ 2	30	1	○			○			○
30	○	6次産業化 商品開発	・6次産業化における商品の企画・買う初と販売までの実際の流れを理解する	2 ・ 2	20	1	○			○			○
31	○	測量学	・トランシット、レベル測量 ・多角測量・水準測量・求積測量	2 ・ 2	20	1	○			○			○
32	○	農業簿記学	・農業簿記の種類と原理 ・農業資産、負債の分類と利用設定 ・取引仕訳の記入方法 ・試算表の作成と決算手続き	2 ・ 2	20	1	○			○			○
33	○	経営分析	・事業計画と P D C A サイクル ・労務管理と人造り ・固定資産投資の考え方 ・簡易的な財務分析	2 ・ 2	20	1	○			○			○

34	○	作物栄養学	・栄養成分の体内での代謝 ・肥料の分類と特性 ・施肥法	2 ・ 2	20	1	○			○			○	
35	○	農業ICT概論	空間情報の収集、解析、表示、公開手法の基礎を学ぶ。授業は、GIS（地理情報システム）、リモートセンシング（遠隔探査）、ドローン、GPSなど	2 ・ 2	20	1	○			○			○	
36	○	農業機械整備	・エンジン、オイルなどの交換・タイヤ組み替え方、パンク修理の仕方 ・電気系統のトラブルの対応と直し方 ・ロータリーの刃の交換小型エンジン、2サイクルエンジンのメンテナンス	2 ・ 2	20	1	○			○		○		
37	○	英会話Ⅱ	・場面を想定した会話練習	2 ・ 2	20	1	○			○			○	

